

コミュニケーション能力の発達に関する研究 －小学5年生における認知・思考の発達特性－

Study of development about the communicative competence
－A development characteristic of recognition and
thinking ability about the fifth grade－

山元悦子

Etsuko YAMAMOTO

国語教育講座

1 本論の目的

本論の目的は、児童の認知・思考の発達特性をふまえた国語科の学習指導を行うための基礎データを得ることにある。論者はこれまでの発達調査*1をふまえながら、児童のコミュニケーション能力*2の発達についての仮説を立て、小学校2年生の発達特性に応じた、話し合いの学習指導カリキュラムを提案した。*3

本論文では、児童の認知・思考の発達、とりわけ高学年の発達状況を捉えるために、小学校2年生と同条件の発達調査を行った。その分析を通して、小学校高学年児童の発達特性を捉えることを目的としている。

これによって、高学年児童に対する話す聞くコミュニケーション能力指導の内容を発達上適時性のあるものにしていくための基礎理論を構築していきたい。

2. 児童のコミュニケーション能力に関する発達仮説

2. 1 どのような発達観に立つか－コミュニケーション能力を育成する上で前提としている発達観－

(1) コミュニケーション行為は、現実的な場を持った対人的行為である。その行為は、他者との関係性の中で発揮され、培われるものである。決して個体内の閉じた能力の伸長という観点から発達を捉えるだけではすくい上げられない側面を持っている。コミュニケーション能力の発達を考える上では、関係性の形成という視点を持たねばならない。

(2) 「話し合い能力の発達」を、「伸長」というイメージではなく、話し合いに現れる3つの徴表を設定し、その浮沈や質的变化で話し合い能力の変容を捉えようとした。つまり話し合いの様相において3つの徴表の現出の多様さが増し、また一つ一つの徴表が質的に変化していく変容過程を「発達」と位置づけている。

*1 位藤紀美子他(2007)『国語科教育改善のための言語コミュニケーション能力の発達に関する実験的・実践的研究』平成16-18年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書, 課題番号16330177

*2 なお, 本研究では, 研究の視点をコミュニケーション行為のうちの話し合い場面におき, 環境(話し合いにおける相手も含めた)との相互作用, つまり働きかけの中で何かを産み出していく行為としてコミュニケーション行為を定義した。この考えに立って, コミュニケーション能力とは他者との協同活動の中で新しいものを産み出したり, 何かを共有・確認していく行為ができる能力と規定している。

*3 山元悦子(2008)「コミュニケーション能力を育てる国語教室カリキュラムの開発－発達特性をふまえたコミュニケーション能力把握に立って－」『福岡教育大学紀要』第57号第1分冊pp59-76

(3) コミュニケーション能力は、社会・文化的な能力であり、生得的な個体の機能発達を前提としつつ、環境の中で熟達者からの働きかけによって後成的に個体に形成されていく能力である。教室という学習を前提とした文化社会の中でどのようなコミュニケーション様式が営まれているかが、個体（児童）の中にどんなコミュニケーション能力が形成されるかを考える場合に必要となる要素となる。つまり、人のコミュニケーション様式はその人が所属している社会集団（児童で言えば学級集団）の目的や文化の影響を受ける。それ故、児童のコミュニケーション能力を育てるためには、教室コミュニケーション文化の形成を図るという視点を持っておく必要があるのである。

また、個体内の能力の面からいえば、コミュニケーション能力の育ちは、世界と自分のかかわり方をどう獲得し、世界と自分との関係性をいかに切り結んでいくかについての構えを持たせることが問題にされなくてはならない。それゆえ、そもそもそのような構えを作る前提としての、個体の対象認知の能力が個体の中でどのように形成されていくのかという認知能力の形成状況がコミュニケーション能力の発達と密接に関わってくる要因と考えられる。

そこで、本論文では、対象認知の能力を、他者との関係認知ベクトル、対課題（内容）認知ベクトル、状況認知のベクトル、自己認知のベクトルによって捉えることとした。また、コミュニケーション文化としては、協同的な関係性を話し合いの場の中で作っていく態度に価値を置き、その発現状況を捉えることとした。

2. 2 表層的談話レベルの話し合いにみられる児童の認知・思考の発達特性

山元（2008）は、これまでに〈話し合い〉能力の発達調査から導き出された表層的談話レベルの話し合いから伺える児童の認知・思考の発達特性を、累積（低学年以降）、分離（中学年以降）、組織化（高学年以降）という指標で捉えてきた。^{*1}

このうちの累積とは、対象からの刺激を受け入れ、それとの関連を持つながら思考を展開させていく認知方略である。この意識に支えられた話し合いは、一つの問題について一貫性を持った方向で展開していくものとなる。これを「連鎖型」の「累積的コミュニケーション」と称することとする。このようなコミュニケーション様式は、話し合いの参加者各自に「つなぎ」の意識が育っている場合に営まれる。小学校2年生を対象とした実験的調査では1年間の指導を通してこの「連鎖型」の「累積的コミュニケーション」が実現した。ただし、その一貫性は、本質的な部分での一貫性ではなく、表面的なつながりになりがちであった。

そこで、小学校2年生の指導重点事項として、協応的態度の育成を土台とし、相手の意見につなぎ、足し、発展させ、触発想起・精緻化・富化を行うような「累積的会話」^{*2}の指導が発達の適時性にかなった話し合い指導の内容であることを指摘した。^{*3}そして、この段階を経て、次なる課題であるお互いの意見を対象化して検討する段階へ進めることが低学年から中学年にかけての指導の道筋であると結論づけた。

また、小学2年生ではお互いの意見を自分の意見と引き比べて検討することはまだ困難な状態であった。これについては、次の発達課題である〈自他の分離〉を促進する必要があるだろう。

自他の分離を認知し、自分と他者との違いを対象化して意識できるようになった段階に児童の認知・思考が発達すると、探究的な話し合いが可能になる素地ができてきたことになる。自他が「分離」し、自分の意見や他人の意見が対象化して認知されてこそ、個々の意見の対立が見られたり、それを前提とした協調・合意形成が可能になる。

たとえば、小学校3年から6年にかけての話し合い展開の変化について、次のような報告がなされている。

〈 1. 小3から小6にかけての話し合い過程の変化を大きく見ると、論争的会話^{*4}から累積的会話へと移行する過

*1 位藤紀美子他（2007）『国語科教育改善のための言語コミュニケーション能力の発達に関する実験的・実践的研究』平成 16-18 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書、課題番号 16330177

*2 発話する各々の主体が必ずしも他と区別するだけの自立性をそなえながら意見を交わすものではなく、むしろ各自が累加的に発言を積み上げていく展開を見せる会話がある。Mercer（1996）によると累積的会話（cumulativetalk）の特徴は次のような点にあるという。「話し手が積極的に（建設的に前向きに楽観的に）しかし無批判にお互いの発言を積み重ねていく。パートナー達は蓄積することによって「共通知識」を積み上げる（組み立てる）ために会話を使う。累積的会話は、繰り返し（復唱、模写、反復）、確認、念入りに作る（推敲）によって特徴づけられる。」

*3 山元悦子・稲田八穂『コミュニケーション能力を育てる国語教室カリキュラムの開発—発達特性をふまえたコミュニケーション能力把握に立って』福岡教育大学紀要 第57号 第1分冊 2008 pp59-76

*4 論争的会話（disputational talk）とは、Mercer（1995・1996）による会話分析の枠組みの一つであり、次のような特徴で説明されている。「意見の決裂と個人的な意志決定によって特徴づけられる。情報が共有されることや、建設的な批判や提案がなされることはほとんどない。主張と反論によって構成される顕著に短いやりとり。」

程として捉えられ、4年生以降、中には探索的会話となっているグループも観察された。

2. 論争的会話から脱却する様相は、特に中学年の話し合い過程の分析を通して次のように捉えられた。
 - ・3年生の話し合いは、司会を立てた場合、個人の意見の羅列的な発表に終わり、司会を立てなかった場合は論争的会話になっている。
 - ・4年生では、相手の発言を肯定したり同意したりする発言が見られるようになる。
 - ・反論を受けても、再度自分の意見を主張することも見られる。
 - ・一方で自分と相手の意見や立場の違いを明らかにしようとする発言が増える。
 - ・恣意的な反論に対して、逆に相手の考えや立場を問いただし、恣意的な反論を抑制する発言も見られる。
 - ・以上のことから、自他の区別、自分の立場の確立が、中学年（4年生）における論争的会話からの脱却の契機になっていると捉えられる。
3. 5年生以降探索的会話の割合が増えるかといえばそうではなく、むしろ累積的会話が支配的になり探索的会話はまれであった。論争的会話も部分的に見られるグループが多かった。>*1

このような考察結果から、中学年における認知上の特性は、他者と自己との違いを意識でき、違いを表現できるようになることが指摘できる。がそれが建設的なものになるとは限らず、話し合い展開は反論の応酬になることもある。これは、自他の違いの他に話し合いの目的や話し合いの展開について同時に認識しながら思考を進めることが困難なことや、建設的な話し合いかたに関する知識に欠けていることが原因と考えられる。

では、本論文が明らかにしようとしている組織化という認知・思考特性とはどのようなものか。これは、諸々の対象を比較・位置付け・対象の共通点を発見するなどの思考活動を通して秩序付け、目的に沿って思考を展開していく認知・思考様式である。

このような思考様式に支えられた話し合いは次のような特徴を持つものである。

・組織型の話し合いの定義

- (1) お互いの意見を比較・統合・位置づけなどしながら組織化を図り、話し合いの目的に沿って批判的協同思考がなされる話し合い。
- (2) 組織型の話し合いは、話し合いの目的を意識しながら他者の意見と自分の意見を対象化して検討・調整・合意形成をはかるようなプロセスをたどることを特徴とする。

「組織型」の話し合い展開は、「探索的コミュニケーション」に見られる話し合い展開である。探索的コミュニケーションにおいては、話し合いの参加者がお互いの考えについて、批判的に、しかし建設的に関わり合う中で問題が追及され、時には新たな考えが生み出されていくのである。

このような展開で話し合えることを期待できるのは、いったいどの学年なのであろうか。組織型の話し合いが可能になるのは、認知発達面の要因もさることながら、コミュニケーション文化面での成熟と、コミュニケーション技能の学習経験が必要になってくる。

「組織型」の話し合いが実現するための要因には、環境（主要には教師）からの積極的な発達の促しが必要である。したがって、高学年になれば組織型の話し合いが期待できると短絡的に結びつけることはできない。

本論文では、高学年児童の話し合い（3，4人）分析を通して児童の認知・思考状況の実態分析を行う。組織型の話し合いを指導するにあたって、児童は何ができて、何が不十分であるのかを明らかにしたい。それをもって高学年児童の話し合い指導の指針を得たい。

3. 話し合いの能力を捉える枠組み

本研究では話し合いの表層レベルに現れる発達の特性を捉える手掛かりとして、先行研究に引き続きマーサ（1996）による〈会話に見られる3つの思考様式〉を援用することとした。とりわけ、組織型の話し合いにおいて見られると予測される探索的会話の発現に注目した。探索的会話についてマーサは、以下のように

*1 間瀬茂夫・守田庸一（2006） 「同一課題による小学生の話し合い能力の発達に関する研究（2）－高学年と成人との比較による分析－」 第111回全国大学国語教育学会（宮崎大会）自由研究発表資料 於：宮崎観光ホテル

説明している。^{*1}

<exploratorytalk 探索的会話：会話の参加者がお互いの考えについて批判的に、しかし建設的に関わる時に生じる。シーケンス3のダイアナとピーターとアンの会話がそれである。発言（申し立て）や提案は共同考察（共同で検討を行う）のために述べられる。これらの発言は要求したり、要求されたりするかもしれないが、しかし要求は自己を正当化する（弁明する）ものであり、そして代わりの仮説（前提）が申し出られる。他の二つの会話と比較すると、探索的会話においては、知識はより公的でもっともなものとして形成され、根拠は会話の中でより明確である。それゆえ進歩が、最後にたどり着いた共同同意から結果として起こる。>

児童の発話の機能を分析する枠組みは以下の通りである。この枠組みによる分析資料（一部）は論文末に示している。

主張

意見

根拠を述べる

意見の変更・再評価：人の意見から自分の意見を見直し主張したり修正したりする。

累積的会話

繰り返し：相手発話を繰り返して確認したり、自説としたりする。

協 応：相手と共話しながら一つの考えを参加者相互で作っていく。

触発想起：相手発話を聞くうちに思いついたことを言う。

言い換え：相手発話を別の表現にしたり自分の理解で言い換える。

精緻化：相手発話の内容について賛成する根拠を出したり、更に具体事例を挙げるなどして、内容を鮮明なものにする。

不足付加：相手発話の不足情報を明示的に付加する。

富 化：相手発話の内容を発展させてアイデアを広げたり、価値づけたりする。

探索的会話（検討）

確 認：相手発話の内容を確認する。（例：君の意見何だったっけ）

疑 問：相手発話について質問する。

賛 意：賛意のあいづち、うなづき、直接の賛意の言葉（それいいね）等で賛意を示す。

反 論：相手の意見について反対の意思表示をしたり、反論したりする。

自説と関連づける：相手発話内容を自分の意見と結びつけて述べる。

新たな視点の提出：新しい考え方を場に提供する。

内容の整理・組織化：意見の似ている所を指摘したり、差異化・統合しようとする。

話し合いについてのメタ意識が見られる発言

参加の促し：場に加わっていないものに参加を呼びかける。

発言要求：発言を求める。

話し合いの流れをモニターする

手順意識：話し合い方について意識した発言をする。

目的意識：話し合いの内容がテーマからの逸脱しないよう管理する。

整理・結論づけ：結論に向けて内容を整理しようとする。

4. 小学5年生の認知・思考の特性

4. 1 調査の概要

- ・調査方法：小学5年（10・11歳児）の5月。2月に3，4人グループでの話し合いの状況を録音。調査にあたっては北九州市立小学校教諭稲田八穂氏に協力いただいた。

*1 “The quality of talk in childrens collaborative activity in the classroom NEIL MERCER, School of Education Open Uuniversity, Walton Hall, Milton Keynes MK7 6AA,U,K Learning and Instruction, Vol6, No4 pp359-377, 1996”

- ・対象：北九州市公立小学校 5 年生 1 クラス 31 名（8 班）
- ・時期：1 回目 2007 年 5 月 ことわざの意味当てゲーム
「魚心あれば水心」の意味を当てよう
- 2 回目 2008 年 2 月 慣用句の意味当てゲーム
「棚に上げる」の意味を当てよう
- ・観察方法：10 グループの話合いを I C レコーダとビデオカメラで収録。
- ・実施方法：4 コマ漫画を手がかりに一人でことわざの意味を推測する
3, 4 人のグループになり、ことわざの意味を考え班で意見をまとめる。
(5 分)
リーダーが班でまとめた意味を報告する。

4. 2 調査結果

小学 2 年生の話し合い記録を論文末に掲載している。この例にあるように、小学 2 年生は協応的なやりとりでことわざの意味を考えていく姿が見られる。このような、お互いの意見の検討もないまま累積的な会話による合意形成が図られる事例は小学 5 年生においてもしばしば見られた。それでは、小学 2 年生の話し合いには見られなかった 5 年生に特徴的な会話はどのようなものであったか。以下これについてピックアップしながら考察していきたい。発話冒頭に記号がある記録は、論文末資料の班ごとの発話記録に付した発話番号に対応している。

○話し合いが中心からそれず、参加者が目的を意識しながら話し合っている。ずれてもそれに気づいて元に戻そうとする発言がすぐに現れる。

B 130 なんでさ、これ小判見て笑いよるん？

A 131 いやこのころ小判がお金やん。そんなことはおいといて。

B 132 わかったわかった。

C 133 ちょっとかけ離れたね。(6 班)

○抽象的なことばの意味を具体例を持ち出して理解しようとする。

D 4 あんね、優花はね、・・・ことはね、魚が水に助けてもらった。やけ魚がこの人でね、水がこの人でね、この人がいつも水を助けてあげよるけーお礼をしている。

C 5 なるほど。

A 6 じゃあ、この先は、

C 7 この人が・・・会社としたらさあ、普通の職員が社長にずうっと助けてもらう、お礼をしている。

A 8 助けてもらってる代わりにお礼をしている。

C 9 それしかないね。(2 班)

○自分たちのことになぞらえて共通理解を図る。

D 46 これが水としたらいつも助けてやりよるし、助けてもらいよるけ、お礼。でもこの人もあげよる。そのお礼。たぶん。

C 47 班やったら？

D 48 班やったら、優花たちが魚で、あがり水みたいな。

B 49 うふふ、リーダーやけ？

C 50 それはね。

A 51 こういうことを・・・やけ。

C 52 じゃあ俺がこれ？(ふふ) ひどいな。(2 班)

○具体と抽象を往復できる。

D 80 魚は仕事で表すと魚はふつうの職員で水は社長と言うことを伝えればいいんじゃないですか。それでいちおう。

C 81 最後これやろ(4 こま目をさす) そしたらさ、これ関係ないよ、これ悪よやけ。魚心あれば、

D 82 いっつも助け合う心があれば助けかえす。

D 85 魚の心というか、その中の魚の心、この人が魚としたら魚の心があればこの社長の水の心があるということじゃないん。

C 86 そういうことか、俺的にいえば、魚心のこの人が魚だとしても、魚だとしたら、そしたらね、

D87 こっち水やない？

○それまでになかった別の視点を持ち出して違った方向からの検討をしようとする。

D99 ほかにありますか？

B100 魚のところがあれば水のところがあるけん。

D101 お礼の心があれば返す心もある。あ、わかった、お礼の心があれば、お礼をされることをする心がある、お礼をする心があれば助ける心がある。

C102 水は魚に何しよんか。

D103 魚は水がないと生きていけない。

C104 それはわかる。

C105 水はなんしよるんかね？（2班）

○相手の意見の不適切さや機能を自分の言葉で言語化して指摘できる。

C151 そのお店が傾きかけた所で、その売り上げを毎日半分くれるなら、俺がいいことしてやってやるわいみたいな。

A152 だからそれは例えでしょ。

C153 例えか。

A154 例えはいいから本当のことを。

○相手からの情報をてがかりに自分の中に取り込んで咀嚼し、展開させて反応を返す。

・魚のほうに、水に親しみ、親しみがあれば水の方だって魚を好意を持つ、ほら、うん？

・魚のほうに。

・水に親しみがあれば、魚の方も、ああ、水も、魚に好意を持つ、そんな意味やろ、人に例えれば？要するに人間に例えると、自分が相手に親しみを持てば、相手も自分に。

・自分に親しみをもつんやろ？

・そうそうそうそう。

・やっと分かったような。（3班）

○他者からの質問を鏡として自分の考えを見つめ直し、新たな考えを生み出している。

C102 水は魚に何しよんか。

D103 魚は水がないと生きていけない。

C104 それはわかる。

C105 水はなんしよるんかね？

D106 ただあるだけ。

C107 でもそれだけやったら、

D108 水はなんにもしてないけど、魚には水は大切なものやけ、してもらってるようで、水も魚が嫌いになって出て行ったら、なくなったら（2班）

○話し合いの流れの方向性について発言できる

B56 具体的に悪なのか考えていかないけんのやないかな（6班）

○自分の意見の矛盾に気がついて言葉に詰まり話せなくなっている相手の言いさした言葉を引き取って続けている。つまり、相手を自分に引き受けている姿がみられる。

C35 魚だって水がなければ死ぬやろ？だけ

D36 水も魚がな・・・くても生きていけるから

C37 どっちでもいいやろ？

D38 でもなくてもいいやろ？

B39 助けてもらいよるんやないん？（2班）

○<棚上げにする>調査の全体の傾向として、それぞれの意見を出し合い、それぞれの意見のキーワードを累積したり、言い換えたりしながらまとめていくプロセスがみられる。しかし、その途中にはお互いの意見の検討はなく、合体型の合意形成プロセスとなっている。

しかし中には論理的探究の見られる班もあった。そこでは、お互いの意見の共通点を聞き取り、くくって言語化していくなかで、問題となる点をはっきりさせ、それについて意見交換する姿が見られた。

C63 後回し、気にしないように、苦手だから嫌いだからってこと。

A64 後でやろうみたいな。

C65 後でやろう。だからばちがあたってしまったってこと。
 A66 じゃあ今までのことをまとめてください。
 D67 じゃあ苦手なものを気にしなかったりとか気にしないようにとか、あと気にしないようにして、好きなことをしてたらばちが当たる。ちょっと違うよね。
 A68 必ずばちが当たるという訳じゃない。
 D69 じゃないだから。
 A70 最後に何とか何とかしなくちゃいけないと思いだし、
 D71 というのは、この2コマだと思うんよ。これも何か関係するかなと思うんやけど
 A72 でもさ、
 C73 でもさ、だいたい、具体的にこの2ますだけだと思う。
 A74 ちょっとずれるんやけどさ、ね、4コマの最後って大体こういうのやない？
 D75 そうだよな。
 A76 楽をするが一番最初で。
 D77 最後にばちが当たる？
 A78 最後が笑い。
 D79 だからこれは関係ないってこと。
 A80 やね。最初からこれは関係ないということにして。
 D81 関係ないことにしてね、3コマめは。4コマ目はあるかどっちかにしてじゃあ2個絞る？1個にする？1個にせな
 いけんよね。だったらこれも合わせた方がいいと思う人。
 C83 一応。私もこれ合わせた方がいいと思う。
 D85 これをあわせて、これとこれとこれね。だったら苦手な宿題は棚上げにしてってことは、後回しにしてだから、好きなことをしてたらばちが当たるってこと？これでいい？
 A86 ばちが当たるはいらんと思うなあ。
 D87 いらんと思う？
 A88 うん。（1班）
 この事例のように、棚上げにするという意味の中に罰が当たるという意味も入れるかどうかについて意見が分かれていることを聞きわけ、それを問題にしようとしている。しかし、その違いを明確に表現してはいないし、自分の意見の根拠を説明しようとしていない。

4. 3 考察のまとめ

以上、5年生のデータに見られる特徴を、児童の認知・思考の発達を捉えるベクトルにそって整理したい。

4. 3. 1 他者との関係ベクトル

- ・相手を受け入れる発言がみられる。
- ・「それってこうじゃない？」という発言に現れているように他者を取り込んで自分の中で咀嚼して、返したり、展開したりすることができる。

4. 3. 2 課題（内容）追求ベクトル

- ・論理的探究を進める発言が多くはないが見られる。
 「違った言い方をすると」「こうしていったらいいんじゃないの？」
- ・例えを使った具体化や、具体例を抽象的なことばレベルで一般化する発言が見られる。
- ・それまでの話の流れとは別の観点をもち出して、検討することができる。
- ・場に出されたいろいろな意見を自分の中で整理しようとする姿勢が見られる。
- ・自分の意見に根拠をそえて説明する発言がほとんどなく、理由も理解せぬまま何となく共感してまとまってしまったり、逆にひたすら意見を主張するものの、出されたそれぞれの意見が、吟味されないまま流れていく状態が見られる。

4. 3. 3 状況へのベクトル

話し合いの流れに関するメタ意識が見られ、場を読んでどう進めたらいいかについては比較的容易に提案できるようである。また、視座の転換ができ、違う観点を持ち出して考えようとする発言も見られた。このことは、自分の利益や視点から離れていくことができ、自分の意見にないものに共感的理解が図れることにもつながっていくのであろう。つまり、自分という中心点から離れて立つことができ、自分という立ち位置を対象化（モニタリング）することが容易になることを示していると考えられる。

これはいわば、物事を引いて見られるようになるということを示している。引いていくというのは、違いの調整ポイントが高くなる、つまりより多くを俯瞰して視野に入れて調整できるようになるということである。引くことでより多くのことが見えるようになり、諸要素を勘案しながらよりよい考えを生み出していけるのである。このような思考を鍛えていくのが、組織型の話し合いへ導くための高学年の指導方針となるのではないか。

4. 3. 4 自己へのベクトル

状況に関するメタ認知が働くということは、自己を対象化して認知することも可能になるということでもある。自己を対象化できれば、グループの中での自分の役割を意識して話し合いに臨んだり、どのように説明したらいいかを意識しながらことばを選んで話すことなどができる段階に到達していると考えられる。従って、どのように考えを進めていけばいいのか、どんな言い方をすれば説得力があるのか等の話し方や考え方（思考様式）を学習し、それを意識して使わせながら習熟させる学習が効果を発揮するのではないだろうか。

4. 3. 5 協同性

- ・班の中で協同的を發揮した追究的な話し合いができるかどうかは、課題としたことわざの難易や、そのことわざへの親疎の問題、漫画が提供する情報内容が影響してくるようであった。
- ・グループの中に司会者的意識で発言する児童と、考えを構造化して発言する児童がいると、協同しあい、深まる話し合いができるようである。司会者的意識とは場の状況や流れを意識して班員に発現を振ったり意見を整理しようという意識である。構造化できる児童とは、今何が問題なのかがつかめる、「そもそも何故」といった根本に立ち返り、課題を分析する発想ができる、場の外側に一步引いて議論されていないことを持ち出せる、今問題になっていることに対して別の観点を示すことができる児童である。
- ・共通点を見いだして合意としたり、意見の足し算で合意を得る姿は見られたが、お互いの意見の違いにこだわり、納得するまで説明し、違いを解決していこうという追究的な協同性はあまりみられない。粘り強くこだわって探究しようとする質の協同性は、学習によって意図的に習得させねば育たないもののように思われる。

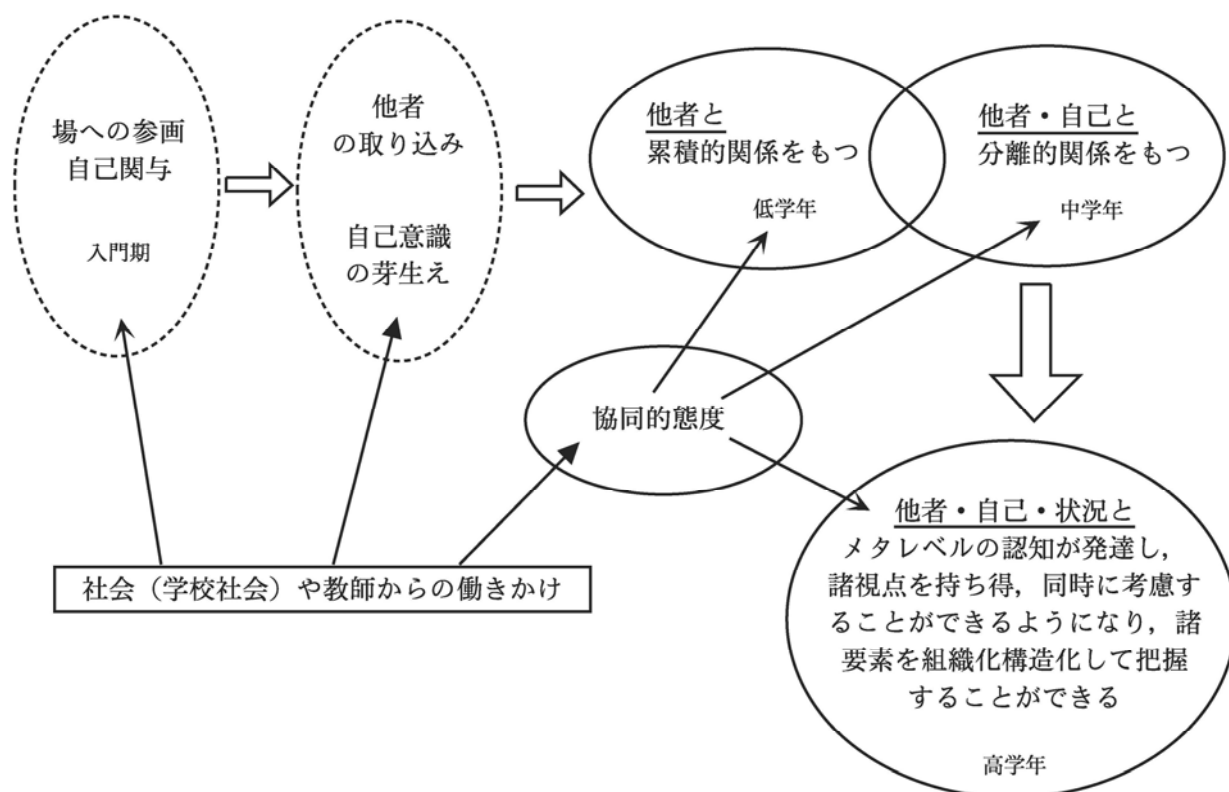
5. 総括—組織型の話し合いへ導くために—

以上、今回分析した5年生の話し合いの実態から、組織型の話し合いへ導くための指導の指針として次のことが指摘できよう。

- ・どうしてそう思うのか、自己を対象化して内省しながらそれを言語化する学習
- ・自分の考えを整理し筋道立てて表現する思考様式を獲得させる。
- ・自分の意見を言うときには根拠を示すことを習慣づける。
- ・自分の考えを相手を意識しながらわかるように説明しようとする態度や話す技能を獲得させる。
- ・追求的協同性を育てる。
- ・お互いの意見を検討する中で生まれてくる疑問をその場に応じて即興的に出し合いながらそれについて考えを作っていく協同思考体験を重ねる。
- ・進行を意識して話し合いに臨む経験を積ませる。
- ・組織型の話し合いができるには、1 協同性（話し合いの内容を他者と協同してよりよいものに作り上げていく姿勢）や2 社会的行為性（メンバーの合意を求める方向で話し合いを進めようとする姿勢）、3 主体性（他者に対して積極的に関わろうとする姿勢）の成長が必要である。しかしこれらの発達特性は、生得的な発達段階によって発現するものではない。これらの特性は、ある特定の段階で発現されるものというよりも、外からの働きかけを通して学級の中に環境が整えられた場合に、個人の中で形成されていく性質の

ものだからではないか。従って組織型の話し合いができるようになるには、環境（主には教師）からの積極的な発達の促しがよりいっそう必要になると考えられる。

下図は、他者をはじめとする諸事象を認知する思考がどのように精緻化・発達するかをモデルとして示したものである。このようなモデルによって学級の児童の発達状況を把握し、指導内容の適時性を勘案していきたい。このモデルの土台にも示しているが、表に現れたコミュニケーション行為として探索的会話が行き交う組織型の話し合いが実現するかどうかは、児童の認知思考の発達状態の影響もさることながら、教師からの働きかけに負うところが大きいと考えられる。どのような働きかけが児童の成長をもたらすのか、今後は実践方法の開発を通して考究していきたい。



付記：本論文の考察は、鳴門教育大学村井万理子氏、北九州市立朽網小学校教諭稲田八穂氏との協議を元に行っている部分がある。記して感謝申し上げます。

本論文は九州地区国立大学間の連携に係るリポジトリ編集委員会の査読を経た論文である。

13 わかる？	14 いたい。	15 わからん	16 痛て	17 というか、名前書いた？	18 書くんですよ。	19 魚心あれば水心？	20 うん、魚は心があれば水にもある。	21 ン	22 でもこれ水があるやん、あつ	23 はいってっつたん。	24 あ、やば、だってこれ魚の尻尾、水心あれば魚心ってあるやん？必ず、魚が痛い...	25 魚が痛い。	26 こんなん、どらえもん、のであった。	27 わからん、どうやって言うん？	28 魚心あれば水心、魚は普通言うん？	29 仕事で表すと、魚は普通の職員で水は偉い人、社長とか。	30 横的に魚はこつたろ。	31 やろ？	32 で水で。	33 魚だつて水がなければ死ぬやろ？だけ。	34 死なやろ？だけ。	35 魚だつて水がなければ死ぬやろ？だけ。	36 水も魚がな...くても生きていけるから	37 どつちでもいいやろ？	38 助けてもらいたいよらんやん？	39 助けてもらいたいよらんやん？	40 水はいつも助けてもらいますよ。	41 この人が水で	42 水も魚がな...くても生きていけるから	43 助けてもらいたいよらんやん？	44 心はどうなる？	45 助けてもらいたいよらんやん？	46 これが水としたらいつも助けてやりよるし助けてもらいよるけ、おれ、でもこの人もあけるよる。そのおれ、たおん。	47 魚やったら、魚心あれば水心、あがりえが水心あれば水心。	48 魚やったら、魚心あれば水心、あがりえが水心あれば水心。	49 うふふ、リーダーやけ？	50 それはね。	51 心は心	52 じゃあ魚がこれ？(ふふ) ひどいな。	53 わかんなかったって、とりはらってやるわ、やば、なんか助けて合うみたないな感じ。	54 心は、	55 心？	56 魚は心	57 さかな (魚) はわからん。	58 それだけでいいんやない、	59 他に意見がある人。	60 ないです。	61 忘れた。	62	63	64 あがり...	65	66	67	68 じゃああがりが発表するように言つて。	69 魚心あれば水心は、魚心は、じゃあ会社とか仕事で表すと、	70 魚は普通の職員で、水は社長で、魚はいつも社長に助けられよるけん、そのおれ？	71 あがり、たとえばね、別例	72 先生終わつたよ。	73	74 発言要求 75	75	76 意見 77	77 魚心あれば水心は、仕事で表すと、	78 魚は仕事で表すと魚はふつつの職員で水は社長と言うことを伝えればいいんじやないですか、それでいらおう	79 意見 80	80	81 意見 81	82	83 意見 83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---------	---------	---------	-------	----------------	------------	-------------	---------------------	------	------------------	--------------	--	----------	----------------------	-------------------	---------------------	-------------------------------	---------------	--------	---------	-----------------------	-------------	-----------------------	------------------------	---------------	-------------------	-------------------	--------------------	-----------	------------------------	-------------------	------------	-------------------	--	--------------------------------	--------------------------------	----------------	----------	--------	-----------------------	--	--------	-------	--------	-------------------	-----------------	--------------	----------	---------	----	----	-----------	----	----	----	-----------------------	--------------------------------	--	-----------------	-------------	----	------------	----	----------	---------------------	--	----------	----	----------	----	----------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

64 だけ、今もあるように、牛乳コップが、豚ミンチになつたりするやん、あれといつしよ、大皿も運うものを張りよつたりして、袋に入れて、

63 いつもしてることさ、毎日さあ、

65 わかつた、

意見 6.3
意見 6.4
賛意 6.5

< 魚心あれば水心 > データ 5 年 (5 月) 6 班

A	B	C	D
1 えーとねー、なんか、わ、悪が関係と 思う。			D 悪がやま
3 わる。		2 わいろ?	
5 これ練習しよう。		4 これってなん?	
8 両方とも悪いこと?		7 気にしただめなんやゆうやん。	6 げ
13 褒美で、褒美で		10 うん。	9 うん。
15 いやちがうよ。		12 お金をもらってること、なにか。	11 たしか。
17 だつてこれ、いっつも米とろけー魚心あれば水心。		16 あの、そのお店を何か贈るために仕籠みとか何とかやってて、	意見 1.5 意見 1.6
18 わかつたわかつたおまえの顔がうまいくいくよ		19 そうそうそこがあるけん。	意見 1.7 意見 1.8
20 こが、こがポイントやろ。		21 まあそうやろね	賛意 1.9
22 2個めと3個めが		24 さすが、	賛意 2.1 賛意 2.2 賛意 2.3 賛意 2.4
25 そやろ		26 さすがさがさが社長	賛意 2.5 賛意 2.6
27 なんかのお礼にはお喜びません。えー? 魚心あれば水心。		28 魚ってさかな。	意見 2.7
29 たとえでしよう、魚は、		30 よい心あれば悪い心みたいな。なんかちがうね、わかん。	意見 2.8 意見 2.9 意見 3.0
32 ここでなんの。		31 練習中練習中。	3.1
34 魚心あれば水心っていつたあとにこれやね。		33 臨時ニュース。	3.2 3.3
37 これに関係あるやん。	35 B うん。	36 うんまあね。	意見 3.4 賛意 3.5 賛意 3.6
39 二人とも悪いってことばねえやろ。		38 二人とも悪いん、これ。	意見 3.7 意見 3.8 反論 3.9
43 そう。		40 まあ悪かにそうかも。	賛意 4.0
45 これをいいたらあかん。		42 えーつとことこことこが重たいやんやけ。	意見 4.1 意見 4.2
		44 ことらへん。	賛意 4.3 4.4 意見 4.5

46 やけー。	47 うーんわかん。	48	4.9 4.7
49 おえあ、おぬしも悪いのちゆうことやけさなにかさ。	50 両方とも悪い、	49	賛意 5.1 賛意 5.2 5.3
51 そう。	52 そうやね。	54	意見 5.4 5.5
54 いやそれって単純すぎやろ。	53 それは、	55 おほほほ。	新たな視点 5.6
57 わあむつかしい。	56 具体的に悪なのか尋えていかなければいけんやないかな。	58 わかん。	意見 5.7
62 何かをそんなきにあげること。	59 うーん?	59	意見 5.8
64 うーんわいる?	61 いやそいうことやないと思ふけど。	60	意見 6.0
66 両足がうまいくいくようこれからも取りはらってやるわい。	62 何を?	61	反論 6.1
71 減盛り。	63 何を?	62	意見 6.2
73 おまえなんしよらん?	64 おぬしも悪えう。	63	疑問 6.3 絶賛 6.4 意見 6.5 6.6
75 何事もうまいくいくように最初から。	65 天下り? いやあ、何か違う。	64	6.7 6.8
77 設定をしようよ。	66 ちがう (笑う) そいう意味やないんよ。	65	意見 6.9
79 何事も良い、あ、何事もよくするために解かるお金。	67 ちがう (笑う) そいう意味やないんよ。	70	7.0
82 とりからってどういう意味か	68 いやあすまんなあ大皿。	71	反論 7.2
84 とりからって	69	72	7.3 7.4
86 とりはからって	70 えー?	73	意見 7.5
89 これからも。	71 減盛り。	74	反論 7.6
91 いろんなことしてあげ	72 ちがう (笑う) そいう意味やないんよ。	75	意見 7.7 意見 7.8
93 うーん、わかん。	73 おおまべんで引きよる。うん、大事なこと。	76	意見 7.9
	74	77	反論 8.0 意見 8.1 疑問 8.2
	75	78	8.3 8.4 8.5
	76	79	意見 8.7 意見 8.8
	77	80	意見 8.9 疑問 9.1
	78	81	9.3
	79	82	
	80	83	
	81	84	
	82	85	
	83	86	
	84	87	
	85	88	
	86	89	
	87	90	
	88	91	
	89	92	
	90	93	
	91		
	92		
	93		

98 だまして、買わせる。				意見 9.4 無察想起 9.5 意見 9.6 意見 9.7	134 ここだけなんよね、.. ..が、	133 ちよっとかけ離れたね。	目的意識 1.3.3 意見 1.3.4 意見 1.3.5 意見 1.3.6
99 だまして買わせるんじゃないか？		96 何事もよくいくように。			135 とりはらってやろうや け。		
100 何事もよくするようになりますか？		99 だますとか。			136 うまくいくようにとりは らって。		137 おまたせんぶ引きよら ん？
101 やけ、やけ買うひとを だます。		103 をやろ？			138 うん？	139 とりはらってってなん だったけ？	1.3.8 疑問 1.3.9
102 やけ、やけ買うひとを だます。		104 ちやうちやう。			140 とりはらってって、	139 とりはらってってなん だったけ？	1.4.0 1.4.1
103 やけ、この人が。		105 反論 1.0.1			141 取りはからってと、	142 重要やね。	意見 1.4.2 手順意識 1.4.3 手順意識 1.4.4
104 ちやうちやう。		反論 1.0.2			143 重要はいらんお。		意見 1.4.5
105 やけ、この人が。		賛意 1.0.3 反論 1.0.4 1.0.5			144 重要なところはそれぞれ メモして考えるか、いろいろ したら分かってくるんやな い？...くない？		
106 ちやうちやう。		反論 1.0.6			145 ここでのことわざが 使われるという事は、 この中に関係があるって ことやろ？		
107 あ、店の		無察想起 1.0.7 意見 1.0.8			146 B とりはらってやるわ いてさ、どうい意味か ね？		
108 あ、店の		無察想起 1.0.9 反論 1.1.0 言い換え 1.1.1			147 先生、稲田博士、取り はからってっていうのは どいう意味ですか？		疑問 1.4.6
109 あ、店の		賛意・反論 1.1.2			148 (T)何かいいようにし てあげるってこと)		1.4.7
110 あ、店の		1.1.3 意見 1.1.4			149 よし、いいようにしてあ けるだつて。		1.4.8 1.4.9
111 あ、店の		1.1.5			150 A/C/いいようにして やるわい。		1.5.0 意見 1.5.1
112 あ、店の		1.1.6			151 そのお席が置きかけた所 で、その売り上げを毎日半分 くくれるなら、俺がいいことし てやってみようか。		
113 あ、店の		1.1.7			152 だからそれは例えでし よ。		富化 1.5.2 1.5.3
114 あ、店の		1.1.8			153 例えか。		不足付加 1.5.4
115 あ、店の		意見 1.1.9			154 例えはいいから本当の ことを。		反論 1.5.5
116 あ、店の		賛意 1.2.0 賛意 1.2.1 反論 1.2.2			155 本当のこととかいらん が。		意見 1.5.6 意見 1.5.7 賛意 1.5.8
117 あ、店の		1.2.0 さん。			156 何事もよくするための 計画		
118 あ、店の					157 B いいようにしてやる。		
119 あ、店の							
120 あ、店の							
121 あ、店の							
122 あ、店の							
123 あ、店の							
124 あ、店の							
125 あ、店の							
126 あ、店の							
127 あ、店の							
128 あ、店の							
129 あ、店の							
130 あ、店の							
131 あ、店の							
132 あ、店の							

＜棚上げにする＞データ 5年(2月) 1班

A 参照	B 疑心	C 懸念	D 疑心
2番が当たったというのが印 象的でしたね。	4 番手なものを番の上におい てほったらかしとったら いけんのよみだいな感じ。	6私も B と同じような感じで、 番手なものを後回しにして好き なことをしていたら間が当る から早く最初に番手なものを後 回しにしないでみていな。	1 J じゃあま、この疑問と か見て思ったことをいって みて、秀から言ってみて。 3 B は？ 5 C さんは？
7 なにかが当たるとい 言葉にみんな気分がいい るよな。			8 一様な感じ。だから後回 しにして好きなことをやっ たらばらばらになったみたい なそんな感じ。

9 ちよよといいですか、 11 ちよよと思っただけど、 このなるまなかにしるのしあ げていたら、気にかからな みたいな感じ、 13 棚上げにするってこと は、気に・・・ 15 気にしないってことじゃ ないかな、	9 意見11 意見13 意見15 意見17 意見18 意見19 意見20 意見21 意見22 意見23 意見24 意見25 意見26 意見27 意見28 意見29 意見30 意見31 意見32 意見33 意見34 意見35 意見36 意見37 意見38 意見39 意見40 意見41 意見42 意見43 意見44 意見45	10 意見11 意見12 意見13 意見14 意見15 意見16 意見17 意見18 意見19 意見20 意見21 意見22 意見23 意見24 意見25 意見26 意見27 意見28 意見29 意見30 意見31 意見32 意見33 意見34 意見35 意見36 意見37 意見38 意見39 意見40 意見41 意見42 意見43 意見44 意見45	10 どうぞ、 12 目につかないから気に ならないってこと？ 14 気にしないって 16 じゃあまとめてみると 棚上げにするっていうのは、 気にならない、気にしない ために、あの後回しにする ために、どっちがいい？気 にしないかと後回しにする。 18 でも、A思っただけ、次に の二人でさ、なるまがまさ か常てくると思っただけな ったんやない？ 20 みないなからんやね、 21 でも、必ずこつちが当た るとは限らん、 23 まあ、4コマの最後とし てはいいかな、 25 これ後回しだね、 27 うん、	146 気にしないように、 47 うん、 49 うん、 51 昔手な宿題はそのままにし ておいて、宿題のことを忘れ ようと思っただんやない？ 52 あーあ 54 忘れようと思っただらば ちが当たった、 56 うん、 57 いいじゃない、 60 でも宿題ってどうやららんと いいけん、 62 だけ、後回し、 65 後でやろう、だからばらば らあたってしまったってこと、 66 じゃあ今までのことをま とめてください、 68 必ずばらばら当たるという 訳じゃない、 70 最後は何とか何とかしな くちやいけなないと思っだし、 72 でもさ、 74 ちよよとずれるんやけどど さ、ね、4コマの最後って大 体こういうのやない？ 76 案をずるが一番最初で 78 最後が深い、 80 やね、最初からこれは開 係ないというこことして、 82 うん、 84 まあ、じゃあ、	47 ちよよと違うところとか ある？ 49 発音要求48 発音要求50 意見51 意見52 意見53 意見54 意見55 意見56 意見57 意見58 意見59 意見60 意見61 意見62 意見63 意見64 意見65 意見66 意見67 意見68 意見70 意見71 意見72 意見73 意見74 意見75 意見76 意見77 意見78 意見79 意見80 意見81 意見82 意見83 意見84 意見85
---	---	--	--	--	--

